

第 5 期宮城県食育推進プラン策定ワーキングの意見まとめ

1 設置目的

第 5 期宮城県食育推進プランの策定にあたり、第 4 期プランで目標達成状況が低調であった「食育を通じた健康づくり」及び今後新たに取り組む予定である「健康的で持続可能な食環境イニシアチブ」の推進方策について、重点的に有識者からの意見を徴収するため設置するもの。

2 ワーキング構成員

	氏 名	所 属 等	分 野
1	丹野 久美子	宮城学院女子大学 食品栄養学科 准教授	学識経験者
2	門馬 美幸	宮城県栄養士設置市町村連絡協議会 副会長 (岩沼市健康増進課)	行 政
3	水口亜希子	教育庁保健体育安全課学校保健給食班	学 校
4	安孫子賢太郎	理研ビタミン株式会社 仙台支店 支店長	食品製造
5	柴崎 系	みやぎ生活協同組合 生活文化部長	食品流通
6	盛 朋子	株式会社宮城テレビ放送 事業開発局担当局長	報 道

3 ワーキングの開催状況

日 時	協議検討内容
令和 7 年 9 月 7 日	1 子どもや若い世代向けの食育推進に向けた方策について 2 宮城県における健康的で持続可能な食環境イニシアチブの取組について（宮城県で取り組む課題について、参加事業者の拡大に向けた方策について）
令和 7 年 10 月 7 日	1 子どもや若い世代向けの食育推進に向けた方策について （健康無関心層、高校生・大学生の食育機会の確保について） 2 宮城県における健康的で持続可能な食環境イニシアチブの取組について（参画者拡大に向けた方策について） 3 国重点事項（案）に関する宮城県での取組について

4 ワーキングでの協議結果

(1) 子どもや若い世代向けの食育推進に向けた方策について

<健康無関心層への食育機会をどう確保するか>

- ・健康に関心のある人だけでなく、無関心な人への対応が課題である。
- ・関心が高まるタイミング（子出産時・小さい頃、病気の時）をとらえた啓発、若い人が集まる機会（成人式、夏祭り等のイベント）に働きかけを行うのはどうか
- ・関心を持ってもらうためには「シンプルで分かりやすいメッセージ」が必要である

<食の自立期間である高校生・大学生の食育機会の確保が必要>

- ・高校生以降は食育機会が減るが大人になる前に、食育機会の確保が必要ではないか。
- ・高校生の食は親がキーパーソンなので、保護者への啓発機会の確保ができないか
- ・大学生はゲーム感覚でのアプローチやインセンティブ付与で興味を持つのではないか
- ・将来の自分を意識させる働きかけが必要（シミ予防のため日焼け止め使用が定着）

(2) 宮城県における健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブの推進方策について

<宮城県で取り組む課題>

- ・減塩はすでに取り組んでいる団体も多く、分かりやすい。企業で取り組む場合には、「売れる」ための何らかの支援が必要。
- ・経済格差に伴う栄養格差は取り組むイメージが見えづらい。
- ・若い女性のやせは、取組事例は少ないが、骨粗しょう症予防活動等が行われている。

<イニシアチブへの参画拡大に向けた方策>

- ・「イニシアチブ」は分かりやすい言い換えが必要。ナッジ理論も活用できるとよい。
- ・企業がメリットと感じる仕組みが必要。県で参加企業におすみつきを与えたり、参加企業を紹介する、減塩等に取り組む際の企業支援など。
- ・商工会、外食・中食、地元企業、県内に工場がある企業を巻き込みたい。コンビニにも参画してほしい。参加する団体を増やしていくことがまずは大切
- ・地元企業にピンポイントで声掛けするのが一番思いは伝わるのではないか。
- ・〇〇の日などの取組、学校給食で減塩メニューを〇〇の日に出す等できたらよいのでは

(3) 「学校等での学びの機会拡大」「大人の食育推進」「食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大」（以上、次期国計画重点事項案）に対する御意見

<学校等での学びの機会の拡大>

- ・学校等での地元食材を進める際、担い手不足の課題が出ており農家さんの支援も必要。
- ・水産の日のように〇〇の日があると給食施設では取り組みやすい。

<大人の食育推進>

- ・食育は子供のもの、というイメージがあるのでずっと続くものということを伝えたい。
- ・チートデーの逆で意識する日を毎月作るなど〇〇の日を啓発するのはいい方法。

<食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大>

- ・生産現場や食材のストーリーを知ることによって愛着が生まれていく。
- ・工場見学などもよい方法。オンラインを活用すれば、実施のハードルも下がるのでは

⇒これらの意見を踏まえ、第5期計画の内容や、具体的な取組等の活用していく。